(三) 授業の基本型について

各教科とも次の型を基本の流れとして取り組んだ。

「確認する→追究する→整理する」

(四) 評価の方法について

○ 生徒の「関心・意欲・態度」を重視し、評価の規準とした。

○ 評価項目については、「関心・意欲・態度」と「各教科独自の項目」とした。

〈二年次〉

(一) 選択教科の幅の拡大について

○ 二学年では、技能四教科九コースを開設し、そのうち一コースを生徒選択にした。

○ 三学年では、英語を除く八教科から十八コースを開設し、技能四教科（B群）から一コース、他の四教科（A群）から一コースを生徒選択にした。

(二) 活動内容の決定について

○ 選択教科の役割のとらえ方を確認した。

○ 生徒の希望する学習内容のうち実施可能なものを取り入れた。

○ 「ピックアップ方式」による課題選択学習を行った。

(三) 個に応じた活動とするために

○ 生徒主体の授業という考えから「指導計画」「指導案」をそれぞれ「活動計画」「活動案」に改めた。

○ ねらいに応じた学習形態の工夫をした。

○ 学習成果の表し方を工夫した。

六 研究の成果

(一) 生徒の意識調査の変容より

○ 興味・関心の高まりについては、三年A群において顕著であった。

○ 主体的な取り組み、自分の目標の達成では、各学年、両群ともに高まりが見られた。

(二) 教師の意識の変容より

事前・事後のアンケート調査の比較より、選択教科授業の実施に関する認識がより具体的になり、教師の意識の高まりが見られた。

反面、生徒の学習状況等に個人差が出てきていること、支援・援助のあり方などの問題点も指摘された。

(三) まとめ

○ 「生徒の特性に応じた指導法」として、課題選択学習や習熟度別個別学習などをねらいに即して多様に展開し、その理論と実践を深めることができた。

○ 生徒主体の授業の確立をめざし、教師の支援・援助のあり方の追求を通して教師自身の意識を高めることができた。

○ T・Tの積極的導入・評価の工夫により、生徒の個性を伸ばす手だての実践が図られた。

七 今後の課題

(一) 自己課題をどのように持たせ、課題選択学習をどう仕組んでいけばよいか、また課題解決のための資料の収集と活用のさせ方をどう工夫すればよいか。

(二) 望ましい学習カードや自己評価カードの工夫のあり方。

— 2学年 —

教科	コース
音楽	アンサンブル
美術	楽しく描こう
	楽しく造ろう
保健体育	個人的スポーツ・卓球・バドミントン
	集団的スポーツ・バスケット・サッカー
技術	コンピュータ
	木材加工
家庭	衣食住の衣
	衣食住の食

— 3学年 —

教科	コース
国語	おもしろ文学・おもしろ日本語
	おもしろ創作
社会	地理
	歴史 I
	歴史 II
	公民
数学	できMATH
理科	第1分野
	第2分野

三年A群

教科	コース
音楽	アンサンブル
	コーラス
美術	平面
	立体
保健体育	球技・バスケット・バレーボール・サッカー
技術	電気A
	電気B
家庭	被服
	食物

三年B群

表1 選択教科とコース一覧

時間	活動の流れ	◎教師の支援・援助 ○指導 ●評価
1	1．はじまり 教師より出席の確認を受ける。	グループごとに出席の確認をする。
4	2．活動内容の確認 本時の活動の内容及び分担を各グループごとにリーダーが中心となって確認する。	◎自分の役割を具体的に確認できるように注意を促す。 ○この時間の役割を確認する。 ●役割の確認をして、計画的に協力してテーマに取り組もうとしているか。（観察）
30	3．調べ学習 それぞれの分担に従って、テーマについて調べる。 ・百科事典で調べる。 ・図書で調べる。 ・プリントで調べる。	◎各グループに行き、自分たちの言葉を使いながら自分たちの理解できる内容を調べ出すようにアドバイスする。 ○資料のそろっていないグループがあれば、できる範囲内で図書・プリントなどを提供し、テーマに意欲を持って取り組むように言葉かけをする。 ●興味・関心を持って課題に取り組んでいるか。（観察） ●協力して、粘り強く課題に取り組んでいるか。（観察） ●資料の準備などを忘れずに行っているか。（観察）

表2 活動案例